教文館　新刊案内　　3月15日発売予定

ハーマンにおける言葉と身体（からだ）

聖書・自然・歴史

川中子義勝❖著

「北方の博士」ハーマン研究の集大成!

ゲーテからは「時代の最も鋭敏な知性」、キルケゴールからは「主体的な真理」への「覚醒のラッパ」を聴いたと評されたJ.G.ハーマン。18世紀の思想的主潮をなした啓蒙主義を批判し、「啓蒙の弁証法」を先取りした彼の生涯・思想・影響を網羅。ハーマン研究の道しるべともなる一冊。

❖著者紹介　川中子義勝　1951年、埼玉県与野町（現さいたま市）に生まれる。埼玉大学、ドイツ・マールブルク大学で哲学を学んだ後、東京大学大学院人文科学研究科（ドイツ文学）修了。熊本大学助教授、東京大学大学院総合文化研究科教授を経て現在、同名誉教授。ドイツ文学・キリスト教思想史、とりわけ、ヨハン・ゲオルク・ハーマンの研究・紹介に努めてきた。『ハーマンの思想と生涯――十字架の愛言者』（教文館、1996年）、『北の博士・ハーマン』（沖積社、1996年）、『北方の博士・ハーマン著作選』（沖積社、2002年）。それらにより、アマーリエ・フォン・ガリツィン賞受賞 1998年）。

A5判・上製・302頁・定価5,280円（本体4,800円+税）　ISBN978-4-7642-7469-3　C3016